

令和2年度生駒市立病院管理運営協議会第1回会議会議録

■ 日 時 令和2年7月30日（木）午後8時00分から午後9時45分

■ 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

(1) 会 員 小紫 雅史、遠藤 清、城谷 学、山上 正仁、前野 見依子、佐野 いづみ、岡島 保弘、森岡 文夫、藤澤 清二、浅岡 弥生

(2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、近藤福祉健康部長、石田福祉健康部次長、桐坂地域医療課課長補佐、吉村病院事業推進係長、奥野病院事業推進係主査

【指定管理者】辻川看護部長、岸田事務部長、吉松総務課長

■ 傍聴者数 3名

■ 会議の公開・非公開の別 公開

■ 会議の内容

1 開会

【事務局(市)】 それではただいまから「令和2年度生駒市立病院管理運営協議会第1回会議」を開催いたします。

本日は、過半数の会員様にご出席いただいておりますので、「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第7条の規定により、本会議は公開としております。

本日の会議では、会議録作成の為、録音させていただいておりますので、ご了承の程よろしくお願いたします。また、お車でお越しになられ方に駐車料金の無料処理をいたしますので、お帰りの際に近くの職員にお声かけ下さい。

次に本日の配付資料について確認させていただきます。会議次第、会員名簿、令和元年度生駒市立病院実施状況調査報告(案)、令和2年度生駒市立病院事業計画書説明資料正誤表の4点になります。全て、お揃いでしょうか。先に会議次第と会員名簿をお配りしておりましたが、会議次第の4、案件(2)を、「現在の新型コロナウイルス感染症への対応状況について」に変更し、また、名簿につきましても、昨日29日付で、新会員の方を追記させていただいたため、差し替えさせていただいております。

2 会員紹介

【事務局(市)】

それでは、今回の会議から参加いただく会員様のご紹介をさせていただきます。公募市民といたしまして、岡島保弘様でございます。

【岡島会員】 皆様こんばんは。岡島です。どうぞよろしくお願いいたします。

【小紫会長】 よろしくお願いたします。

【事務局(市)】 続きまして、地元自治会を代表する者といたしまして、東生駒自治会会長、浅岡弥生様でございます。

【浅岡会員】 浅岡です。どうぞよろしく申し上げます。

【小紫会長】 お願いいたします。

3 会議内容の確認

【事務局(市)】 生駒市立病院管理運営協議会は、市立病院の管理運営に関する事項について、会員の皆様方の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として、開催されます。本会議において、皆様からのご意見及びご提案を求める事項は、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、いただいたご意見をもとにPDCAサイクルを意識した市立病院の継続的な業務の改善及び健全な管理運営を図ってまいります。次に、令和2年度の管理運営協議会は、今回と11月、3月頃に開催する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後開催の時期がずれる場合がございますので、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。

続きまして、この4月の人事異動に伴い、変更になった事務局の職員を紹介させていただきます。福祉健康部長の近藤でございます。

【事務局(市)】 近藤でございます。よろしくをお願いいたします。

【事務局(市)】 続きまして、私、地域医療課病院事業推進係長の吉村でございます。よろしくをお願いいたします。

【事務局(市)】 次に令和2年度生駒市立病院事業計画書説明資料正誤表について、事務局からご説明申し上げます。

【事務局(市)】 配布資料、令和2年度生駒市立病院事業計画説明資料正誤表をご準備願います。また、添付資料といたしまして、過日会員の皆様方にお配りさせていただきました、令和2年度生駒市立病院事業計画書説明資料12ページ部分を添付させていただいております。市民健診の項目におきまして、平成30年度の事業報告、令和元年度の中間報告及び課題等欄に記載の令和元年4月から令和2年1月までの参考値につきまして、誤りがございました。なお、令和2年度の事業計画の数値につきましては、変更ございません。誤りの内容につきましては、カウント誤り、集計の際の区分誤り及び人数と件数の錯誤でございます。

本誤りにつきましては、担当者間での認識に相違があったこと、また集計作業において複数人によるチェック体制が確立されていなかったことが原因であると考えております。

今後は、認識誤りが起きないように担当者間で申し送りを確実にいき、数回チェックを重ねることで数値を確実なものとするよう努めて参りますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

4 案件

【事務局(市)】 それでは、会議次第4の「案件」に移らせて頂きます。

以後の進行につきましては、要綱第6条の規定により、会長が議長となりますので、小紫市長、どうぞよろしく願いいたします。

【小紫会長】 皆様、改めまして、こんばんは。本日は大変夜遅い時間に、また新型コロナウイルス感染症の対応でお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日のこの会議でございますが、令和元年度の第3回会議は、新型コロナウイルスの影響で中止になり、今回の会議を迎えることになりました。色々な災害対応を私も市長になってからやってみましたが、新型コロナウイルス感染症は、今までになかったタイプの災害だと思いますが、大変苦慮しながら、対応しているところです。また、生駒市立病院の職員の皆様、本協議会の会員には医療関係者の先生方もおられますし、色々な立場で今日参加いただいております皆様も、大変な毎日を過ごしていただいております。また、生駒市のためにご尽力いただいておりますことをこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。4月に10人であった患者数が7月に入ってから20人を超えて今、生駒市での感染者数が30人を超え、既に報道でも出ておりますように、小学校職員が感染し、PCR検査を受けたというようなこともございます。爆発的な感染ではありませんが、「今日は感染者出なかったね。」と、いう日が最近2日続かないというような状況でございます、気の引き締めどころだと思っております。

本日は急遽の議題として、コロナウイルスのことをご関心おありだと思っております、「(2)現在の新型コロナウイルス感染症への対応状況について」を追加させていただいております。また、本日、主には、令和元年度 生駒市立病院実施状況調査報告書ということでございます。昨年度の様々な市立病院の報告に対してご意見をいただき、生駒市立病院の開院から5年経過しまして、軌道に乗りかけてきたなということで、この協議会で申し上げていたら、新型コロナウイルス感染拡大となり、遠藤院長はじめ職員の皆さん、市役所の方も一丸となってしっかりと、こういう時期だからこそ、共に力を合せて乗り切り、また、生駒市民の皆様に安心安全をお届けするような医療体制を尽くしていくような取り組みになればと思っております。

本日は、午後9時30分位までの予定をしておりますので、皆様何卒ご協力の程、よろしく願いいたします。

先程、事務局から紹介がありましたが、本日2名の方が初めて協議会に参加していただいております。基本的には、この協議会を年3回行ってございまして、今日は、昨年度の運営に関するご意見をいただきまして、それを本年度のこれからの執行と次年度の計画に繋げていく場とご理解をいただければと思います。

事業計画の項目ごとに説明を受け、項目ごとにご質問いただいで意見交換を行いまして、最後にまた全体を通してのご質問をいただいでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

それではまず、お手元の令和元年度生駒市立病院の実施状況調査報告書(案)の資料につきまして、事務局から説明の方よろしく願いいたします。

【事務局(市)】 それでは、A3版の令和元年度生駒市立病院実施状況調査報告書(案)につきましてご説明申し上げます。

1枚めくっていただきまして、1ページをお願いいたします。

表の横軸ですが、一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順に年度事業計画、事業報告、事業報告の補足説明、右端が取組の評価・課題の欄となっております。

次に、表の縦軸でございますが、1ページから4ページが診療科目・病床数等の基

本項目、5 ページ以降は病院事業計画のコンセプトごとに区分して記載しております。

この資料の事業報告・補足説明の欄につきましては、病院から、取組の評価・課題の欄につきましては生駒市から説明させていただきます。

それでは、病院から説明をお願いいたします。

【事務局(指定管理者)】 令和元年度事業報告についてご説明をさせていただきます。まず、1 ページ目の「診療科目」でございます。計画通り、診療科目につきましては、16 診療科でございます。さらに補足説明欄にもありますように、平成31年4月から形成外科において下肢静脈瘤外来を専門外来として設置をいたしまして、診療の幅を広げました。

次、2 ページ目は「病床数」でございます。令和元年7月からHCU病床を7床から8床に増床いたしました。3月末までのHCUの病床利用率につきましては、79.9パーセントとなっております。さらに補足説明欄にもありますように、令和元年の12月から看護基準を10対1から7対1にアップをいたしました。

次に、3 ページの「人員体制」をご覧ください。3月末現在、常勤医師20名となっております。常勤医師に関しては、グループ内転勤により麻酔科1名、医局人事により腎臓泌尿器科1名、勤務希望者の募集により救急科1名、内科1名及び産婦人科1名が入職をいたしました。看護師は119名、その他薬剤師、理学療法士と合せまして、112名、合計251名となっております。

次に4 ページをご覧ください。「患者数」でございます。入院患者数につきましては、1日平均が117.1名、外来患者数は1日平均203.2名となっております。年度計画と比較いたしまして、入院患者の方は73.8パーセント、外来患者数については89パーセントの達成率となっております。入院患者につきましては、診療科別で多少の増減ありますが、合計しますと補足説明欄にありますように、前年に比べて入院が1日平均12.1名の減、外来で8.4名の減となっております。

次に5 ページから6 ページの「質の高い医療の提供」をご覧ください。手術件数ですが、全項目の合計で1,262件となり、整形外科は前年度に比べて大幅に減少したことにより、トータルで83件の減となっております。また、分娩件数につきましては、143件となっております。また市立病院で出産されました家族に集っていただく産科交流会を12月に開催いたしまして、155名の参加がございました。

次に6 ページをご覧ください。主要疾病、4疾病でございますが、がんにつきましては、地域がん診療連携拠点病院との連携をもとに治療体制を確保しております。脳卒中につきましては、近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと早期に検査・診断できる体制を確保しております。急性心筋梗塞につきましては、緊急カテーテル検査PCIが常時可能な体制を確保しております。糖尿病につきましては、かかりつけ医との連携のもと治療を実施しております。また、患者満足度の向上のために、入院及び外来患者アンケート調査を実施し、補足説明欄の記載の総合評価の評点となっております。さらに生駒市立病院独自で患者アンケートの調査も実施しております。ご意見箱等の内容の対応につきましては、補足説明欄に記載をしている通りでございます。

次に7 ページをご覧ください。「医療における安全管理に対する取組」でございます。医療安全管理委員会は毎月1回、医療安全カンファレンスは毎週1回開催するなど、インシデント、アクシデントに関する事例の分析などを行い医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めております。また院内感染対策としましては、院内感染対策委員会を毎月1回開催するとともに、ICT合同カンファレンスをグループ病院と合

同で偶数月に行っており、ICTラウンドを毎週1回、感染勉強会を、7月と11月の2回開催し、院内感染防止活動に取り組みました。また、院内感染対策に係る地域医療連携といたしまして、合同カンファレンスに4回参加をさせていただいております。また、新型コロナウイルス感染症対策会議に参加しており、外来においては有熱エリアを区分し病棟においては疑似症患者エリアをビニールカーテン等で仕切るなど院内感染対策を実施いたしました。

8ページの「地域完結型の医療提供体制の構築への寄与」についてでございます。在宅支援機能の充実としまして、医療連携登録医は3月末時点で66施設、81名となっております。補足説明欄記載の通りに市内クリニックが30施設35名、これは市内全クリニックの33、7%になります。また、協力医療機関連携施設は3月末時点で60施設でございます。前年度に比べ6施設増加しております。

また、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会に院長が参加するとともに、在宅医療介護推進部会及び入退院調整マニュアル運用ワーキンググループへも地域医療連携室の職員が参加をしまして、地域完結型医療の体制の構築へ寄与しております。また、医療教育プログラムにつきましては、6月に新生児蘇生法講習会（N CPR）、9月に医療メディエーター研修が開催され、合わせて48名が参加いたしました。

9ページの「周辺の他の医療機関との連携」でございます。医療機器のオープン利用として周辺の医療機関に市立病院のMRIやCTなどをご利用いただいております。利用件数は、MRIが254件、CTが91件、内視鏡が11件、エコーが25件の実績となっております。

次に、紹介、逆紹介についてであります。紹介率は33.3%、逆紹介率は18.3%、また補足説明欄にありますように、市立病院が市内医療機関から紹介を受けた割合である市内医療機関の市立病院利用率は88.8%となっております。

10ページの「救急医療の充実」につきましては、救急受入件数が1,558件、救急応需率は95.2%となっております。

補足説明欄ですが、救急車以外で当直時間に来られた患者さまについてはウォークインとして集計しており、2,923名を受け入れており、月平均243.6名となっております。

11ページの「救急に対する人員体制」につきましては、1名の時間外担当医と1名の常勤当直医の2名体制となっており、専門医によるオンコール体制をとるとともに、外来看護師2名のほか、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員それぞれ1名の当直体制をとりました。

また、休日夜間の診療レベルは、CTやMRI、X線検査、血液検査、全て対応可能となっております。加えて、心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術も対応可能な体制を整えております。

12ページ「小児医療の充実」をご覧ください。常勤医師2名体制を目指して、1名は平成30年1月から着任しており、もう1名の確保に努めましたが、北和地区の小児科二次輪番体制への参加はまだできておりません。

次に、「災害時医療の確保」でございます。6月19日と3月18日に消防訓練を実施し、5月10日と11月7日には、市主催の防災行政無線通信訓練に参加をいたしました。また補足説明欄記載のとおり、11月28日には市消防本部との意見交換会に出席をいたしまして、また2月21日には市内病院等の救急等意見交換会にも参加をいたしました。次に、「予防医療の啓発」でございます。疾病予防機能の強化として、市民の疾病予防を目的として、医療講演会を72講座開催して、合計2,126名の参加をいただきました。また、各種健診につきましては、補足説明欄に記載

しておりますように5,611件となっております。前年度と比較いたしまして、924件増加しております。

13ページの「市民参加による運営」でございます。市民交流事業につきましては、開院時から開催しております健康フェスティバルを令和元年度も開催いたしまして、約500名の参加をいただきました。

次に、「環境に配慮した運営」では、市の環境マネジメントシステムの取り組みとして、資源ごみの分別収集を強化するとともに、院内での省エネルギー化に努めてまいりました。

最後に14ページをご覧ください。令和元年度の収支についてご説明いたします。

医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、計画の2億1,619万5,000円に対してマイナス4億2,665万5,000円であり、計画に対して6億4,285万円のマイナスとなっております。

医業利益からその他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きました経常利益につきましては、計画の4,812万円のマイナスに対して4億9,990万3,000円のマイナスであり、計画に対して3億6,187万3,000円のマイナスとなっております。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いたします。

【事務局(市)】 それでは、取組の評価・課題についてご説明申し上げます。

それでは、1ページに戻っていただきたいと思っております。「診療科目」でございます。

専門外来につきましては、評価として、健診や人間ドックの件数増や他の診療所からの紹介により、乳腺・甲状腺外来等の受診者数が増加しており、市民ニーズに対応できている、また、下肢静脈瘤外来を開設するなど質の高い医療の提供を目指し、専門的な診療・治療を行う専門外来の機能が充実してきていることを挙げさせていただいております。

課題といたしましては、今後も市内の医療ニーズや患者動向を注視しながら、常勤医師の確保やさらなる病病連携の推進など質の高い医療の提供を目指し、引き続き疾病の早期発見、早期治療を目指すため、専門外来の充実を検討する必要があるとしてございます。

次に、2ページをお願いいたします。「病床数」でございます。評価といたしましては、HCUを1床増床させたことにより、緊急入院患者、重症患者及び術後患者の増加に備え、手厚い治療体制の充実が図られている、また、看護基準が10対1から7対1へとアップしたことにより、患者一人ひとりに対して、直接的ケアをすることができる時間が増え、また、夜勤時も人員を増やす体制を備えつつあり、入院患者に対するケアの充実など、看護体制がさらに充実したとしてございます。課題といたしましては、新型コロナウイルスの流行が続く中、今後も病床利用率の改善は困難な状況にありますが、整形外科の常勤医師の退職により、整形外科をはじめとする常勤医師が不足する診療科の医師確保の取組を一層進める必要がある。また、小児科の救急医療、入院医療体制の構築や小児二次輪番体制の参加に向けて、体制の整備に努める必要があるとしてございます。

3ページの「人員体制」は、評価といたしまして、救急科、麻酔科及び産婦人科の常勤医師を確保、増員したことを挙げており、課題といたしまして、常勤医師の退職により入院、手術に対応できなくなった整形外科や引き続き不足する脳神経外科等の常勤医師の確保・増員を行う必要がある。また、前年度よりも外来患者数が減少した消化器内科などの各診療科については、常勤医師を確保・増員するまでの間、病病連

携、病診連携により、外来診療体制の維持に努める必要があるとしてございます。

4 ページ、「患者数」をお願いいたします。評価といたしまして、病院だよりの定期的な発行をはじめ、広報活動の取り組みの強化など市民への周知の取組の強化が進められている。また、地域の医療機関への情報提供等訪問回数が大幅に増加しており、地域の医療機関への周知の取り組みがより一層強化されているとしております。

課題といたしまして、入院及び外来患者数ともに計画を下回っており、常勤医師の確保に努めるとともに、地域の医療機関との病病連携及び病診連携をより一層進める必要があるとしております。

5 ページ、「質の高い医療の提供」でございます。

評価といたしまして、乳房X線撮影装置及び高気圧酸素治療装置を設置したことにより、質の高い医療提供体制の整備が進められている、また、質の高い医療提供、医療の効率化、透明化を実現するため、令和2年度のDPC導入に向けて準備を進めたとしております。

課題といたしまして、常勤医師の退職により、整形外科の手術件数が大幅に減っており、より一層地域の医療機関との病病連携を進め、医療体制の整備に努める必要がある。

また、新型コロナの流行が続くなか、徹底した感染管理に努めながら、質の高い医療提供体制を継続して整備する必要があるとしております。

6 ページをお願いいたします。

「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」及び「糖尿病」につきまして、十分な連携が取れていることを評価とさせていただきます。

さらに、入院患者アンケートにおいて、前回調査や他病院と比べて、特に評価が高かったのは、医師及び看護職員の診察内容及び態度、院内の雰囲気、清掃状況などの各項目であった、また、アンケートの実施及びご意見箱の設置により、患者や利用者の声に耳を傾け、市民満足度の向上につなげていく仕組みができています。

課題といたしまして、外来患者アンケートにおいて、医師の診察内容等は、前回調査や他病院と比べて評価が高かったものの待ち時間への配慮などにおいて評価が低かったことから、今後、待ち時間短縮に向け取り組む必要があるとしております。

7 ページ、医療安全管理に対する取組につきましては、評価として、院内感染対策に係る地域医療連携として、他病院を中心とする合同カンファレンスに参加し、地域医療連携を強化しているとさせていただき、医療安全勉強会及び感染勉強会については、できるだけ全職員が受講できるように努めているとしております。

課題といたしまして、今後の新型コロナの感染拡大に備えて、感染管理をより一層徹底するとともに、引き続き、県をはじめ関係機関と情報交換等しながら、状況に臨機応変に対応する必要があるとしております。

8 ページ、「地域完結型の医療体制構築への寄与について」でございます。

評価といたしまして、在宅患者の増悪時の受入れなど、後方支援病院の役割を果たすため、市立病院と地域の医療機関等との連携が進められているとしております。

また、医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーによる入退院支援チームの活動などにより、退院後も切れ目のないケアを提供できているとしております。

課題といたしまして、在宅支援機能をさらに充実させるために、市内の医療連携登録医を増やしていくことで、地域の医療機関との連携強化を図る必要があるとしております。

9 ページをお願いいたします。

評価といたしまして、入退院支援加算件数が増加しており、退院困難患者の早期抽出、入院早期の患者・家族との面談、多職種連携カンファレンスを実施するなど、入院早期から退院後の生活を見据えた医療と介護の切れ目のない支援が推進されている、また、地域の医療機関へ病院だよりを郵送していたが、直接訪問へと改めたため、地域の医療機関への情報提供等訪問回数が大幅に増加した、さらに、協力医療機関連携施設との連携実績を重ねたことにより、新たな協力医療機関連携施設が増加したとしております。

課題といたしましては、地域医療機関との病病・病診連携の推進及び紹介患者の増加のためには、医師会との連携は不可欠であり、引き続き入会審査に対応していく必要があるとしております。

10 ページをお願いいたします。「救急医療の充実」でございます。

評価といたしまして、24 時間 365 日救急患者の受け入れ態勢を整えていることから、高い救急応需率を維持しているとしております。

課題といたしましては、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップに努めており、引き続き関係機関へ協議を進めることで輪番体制への参加を実現する必要がある。また、北和小児科二次輪番体制への参加に向けて、体制の整備に努める必要があるとしております。

11 ページ、「救急に対する人員体制」をお願いいたします。評価といたしまして、24 時間 365 日、病院事業計画に掲げる CT、MRI、X 線、血液等の諸検査及び緊急入院並びに心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術に対応可能な体制が継続されているとしております。

課題といたしまして、当直可能な医師 2 名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の 24 時間 365 日の救急受入体制が維持されているものの、当直・オンコール体制に参加できる脳神経外科及び整形外科の常勤医師の確保に努める必要があるとしております。

12 ページ、「小児医療の充実」でございます。

評価といたしまして、当院産婦人科と連携し、出生児の診察や1ヶ月健診を担当し、安心して出産できる体制を構築しているとしております。

課題といたしまして、小児二次医療の充実や小児救急の実施に向け、体制の整備に努める必要があるとしております。

その下の段の「災害時医療の確保」につきましては、評価といたしまして、大規模災害時の医療救護にかかる防災行政無線の通信訓練に参加するなど、市医師会災害対策本部を中心とする市内救護病院との情報共有・連携体制の構築に努めたとしております。

その下の段の「予防医療の啓発」につきましては、評価といたしまして、医師や薬剤師等による予防医療の啓発に向けた医療講演会が幅広い内容で開催された、また、市民の健康づくりや疾病予防を図るため、市民との交流、健康づくりの推進に努めている。さらに、年度事業計画と比べて、PR 活動等を強化したため、市民健診件数が大幅に増加し、疾病予防機能の拡充が図られているとしております。

課題といたしまして、市民の健康づくりや疾病予防を促進するためには、院

内の講演会の充実に加え、自治会や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて、より一層広域的に市民にPRする必要があるとしております。

13ページ、「市民参加による運営」につきましては、本管理運営協議会の運営、入院・外来患者アンケートの実施及び健康フェスティバル開催を評価としており、課題といたしまして、入院・外来患者アンケート調査結果を精査し、評価・満足度の高い項目は、さらに向上を目指し、評価・満足度の低い項目は、原因を分析し、課題の抽出、改善策の検討を行い、具体的に次年度以降の計画に反映させる必要があるとしております。

その下の段の「環境に配慮した運営」及び「院内保育所」につきましては、課題はございません。

【小紫会長】 それでは、項目ごとにご質問、ご意見等を伺っていきたくと思いますので、よろしくお願いいたします。

1ページ目の診療科目につきまして、会員の皆様から、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。特になければ次のページにいきます。

2ページ目の病床数です。いかがでしょうか。

【城谷会員】 まず、最初に私共の近畿大学奈良病院が、市民の皆様に変なご迷惑や心配をお掛けしたことをお詫び申し上げたいと思います。一時的に診療を休止しておりましたが、通常モードに戻るべく鋭意努力しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質問があります。看護基準というのが2ページ目にごございますけど、10対1から7対1に上げられたということですが、実際に入院基本料も変わったという認識でよろしいでしょうか。急性期一般入院基本料7項目の1をとったということですね。看護必要度でいうと何パーセントでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 31パーセント以上です。

【城谷会員】 急性期病院として、十分ファンクションなさって素晴らしいと思います。一旦落とすと今度一番上の基準値に戻れないという落とし穴がありますので、これを続けられないといけないというのが大変だと言われています。31パーセントでしたら、まだ余裕もってなさっていると思いますので。素晴らしいと思います。

【事務局(指定管理者)】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ありがとうございます。他に2ページ目でごございますか。

それでは、3ページ目の人員体制で、何かご質問の方、いかがでしょうか。

4ページ目の患者数の方は、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

ないようですので、次は、5ページ目から7ページの質の高い医療提供に移ります。

5ページ目から7ページまでで何かご質問、ご意見ございましたらお願いします。

佐野会員お願いします。

【佐野会員】 新型コロナウイルスの感染者の対策に対してですけど、ショッピングセンターの入口に、スマホみたいな形で熱を測る機械があって、それを病院の入口につけるとかして、入る時点で測れるようにとかされたらいいのかなと思いました。

【小紫会長】 ありがとうございます。入場ゲートのようなところに熱感知センサーを置くということですね。普通は、非接触型体温計で測ったりするのですが、生駒市役所の方でも、関係施設で、入場者数が非常に多いような場合は、それを使わないということで、入場ゲートにそういうようなセンサーを置いて対応する予算を議会に出してまして、議会が認めていただいたら、そういうのを置くといったような話もあります。病院の方から何かありますか。来院される方にはきちんと熱を測っておられることと思いますが、何か補足ございますか。

【事務局(指定管理者)】 現在は、玄関のところで、対応させていただいておりまして、患者様をはじめ来院されている方に快くご協力をいただいておりますので、それほど困ったような状況にはなってはおりません。

【小紫会長】 ありがとうございます。何とか今は対応できているということかと思えます。

それ以外、5ページ目から7ページまで何かございますでしょうか。

藤澤会員をお願いします。

【藤澤会員】 常勤医師の退職が、色々出てきているのですが、先生の勤続年数やどのくらいお勤めなされた方が退職されているのかをお聞きしたいのですが。

【小紫会長】 先生方、異動とか交替とかあるのでしょうか、いかがでしょうか。院長先生。

【遠藤副会長】 勤続年数に関してですが、病院自体がまだ5年しか経っていませんので、開院当初からおられた医師でもまだ5年です。退職された医師については、色々な事情で辞められるので、長い方が辞めるとか途中から来られた方が辞めるというのは、特に傾向があるわけではなくて、個人的な問題が多いような感じは受けます。

【小紫会長】 他に5ページ目から7ページまで何かございませんか。

特にないようですので、次は8ページ目と9ページでございますけど、地域完結型医療体制構築への寄与でございますが、何かご意見ございますか。佐野会員、どうぞ。

【佐野会員】 逆紹介率と市立病院の利用率が上がっているというところで、直接訪問されたりとか、何か努力をされているということで喜ばしいことだと思いました。やまと西和ネットに参加されて今後医療の質が良くなって色んなこと、収益に繋がっていけばいいなと思いました。

【遠藤副会長】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ご意見ということで、よろしいですかね。逆紹介率も1つの課題でしたので、ありがとうございます。他に8ページ、9ページでいかがでしょうか。

それでは、次、10ページ目、11ページ目が救急医療に対することですが、この両ページにつきまして、何かご意見、ご質問、ございますか。

【城谷会員】 10ページ目の表の上から二つめ、救急受入件数が約300件減少になっていますが、これは整形外科の先生が退職されたことが関係していると考えてよろしいでしょうか。

【遠藤副会長】 具体的に分析していませんが、確かに骨折が明らかなものであったりする場合がありますけども、当院に来て検査をして、そして送ることもあるのですが、やはり、もう明らかな場合には、施設の方に廻っていただいているので、先生が言われるように、かなり大きな理由にはなっていると思います。

【城谷会員】 交通事故とか多発外傷は、脳神経外科なのか整形なのか形成なのか、どこの科が主たる主治医になるべきかというか、その症状を診てみないとわからなくて、一旦受けるとかえって遠回りになるという判断が働くことがあり、確かに整形外科の先生がおられないと、辛いところがあるかもしれません。

【小紫会長】 ありがとうございます。他、10、11ページ何かございませんか。森岡会員お願いします。

【森岡会員】 救急に関して、個人的な話なのですが、7月に外出先で、腕を切りまして、救急の外科で縫ってもらったのです。自宅に帰ってきたら、血が止まらなくなりまして、生駒市立病院に駆け込んで、形成外科の先生に診てもらい、止血してもらって、一旦、帰りましたが止まらない。押さえても止まらないのです。外出先の病院で縫ってもらったところから血が出ているので、押さえても止まらない。もう一度生駒市立病院にお伺いして、形成外科の先生に止血してもらって、傷口の糸を切ってもらって、始めからやり直してもらい、スムーズに受け入れてもらって、処置してもらった。そういう点では、非常にありがたかったと思っています。

また、市立病院に来る時は、いつも夜なので、気になることがあります。非常に病院は静かですね。リハビリテーション関係の患者さんを、あまり見掛けないから静かというか、入院している人は手術したりで寝込んでいるので、ベッドからあまり動かないので。リハビリを受けている患者さんがおられるとしたら、もう少しざわめきとかで、活気があると思うのですが、非常に静かだなという感じがします。そういうことが関係しているのですか。

【遠藤副会長】 良かったです。ちゃんと言っていて。病院が静かだというのは。リハビリは、当院は結構入院して来られた方で、ある程度の条件の方は、ほとんどしていると思います。リハビリは、3階の広い所でやっていたりします。そこは病棟ではありませんし、その他は、病棟の中をゆっくり歩くようなリハビリが多いので、院内放送をしないことが大前提になりましたので、静かな病院を目指しているというコンセプトがありますので、「うるさかった」と言われるよりは、「静かだった」と言われる方が非常に嬉しいと思います。活気がないということではないと思いますので、また皆でどうしたら活気があるように見られるかを考えていきたいと思っています。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは浅岡会員お願いします。

【浅岡会員】 市立病院の近くに住んでいるのですが、父が90歳で整形のMRをしていただいたのですが、「手術するほどの事ではない。これくらいでしたら、近くの診

療所に行かれたらいかがでしょうか。」ということをおっしゃって、しよんぼりして、帰ってきました。一番近い病院がこちらなのですが、市立病院は、湿布とか注射くらいでは、来たら駄目な病院なのではないかと。

【遠藤副会長】 本当に大変申し訳ありませんが、個人的には全然そんなことはないと思っています。医療の棲み分けは大事ですが、地理的に支えている意味では、求められていけば、答えてあげようと思っています。言い訳になってしまうのは嫌なのですが、先程から出ているように、常勤医師でない医師は、一週間に一回しか来られないので、患者さんに何か突発的な事が起こった時にきちんと対応できないので、この病院よりもお近くの診療所という傾向が強いような気がします。私は外科ですけど、外科に関しては、そういうことは言ったことはないですし、先程から出ている逆紹介というのは、例えば手術を受けられて、歩くのも大変な方がわざわざ薬だけとか定期的な診察だけに病院まで来ていただくのは大変なので、お近くの診療所の先生に診ていただいて、検査の時だけ、半年に一回とか市立病院に来ていただくのが第一かなと思っていますので、整形外科の医師を何とか早く入れるようにと思っています。

【小紫会長】 ありがとうございます。全体で質問いかがでしょうか。山上会員どうぞ。

【山上会員】 救急のことですが、市内輪番病院のバックアップについて、当番病院の拒否件数が増えているということは、ちょっと申し訳ないことだなと思います。受けられない件数も増えているにも関わらず、市立病院の受ける件数が減っているということで、もうちょっと受けていただいているような気がするのですが。先程の、遠藤先生が仰っておられたように整形医師がおられないということも関係してかかもしれませんが、専門性の問題なのか、依頼された時非常に忙しかったという人員の問題なのか、わかればお教えいただけませんかでしょうか。

【小紫会長】 それでは、事務局からお願いします。

【事務局(市)】 救急のデータにつきましては、こちらに記載の方をさせていただいておりますとおり、市の消防本部からの提供という形になっております。こちらで伺っておりますのは、このバックアップという定義でございますけど、輪番病院が一度断って、最終的に市立病院で受け入れていただいた率という形になっております。途中の過程で他の病院が断って、最終的に市立病院になったというような事例の件数でございます。実際の途中の過程が省略しているようになっておりますので、率の方は出ていますが、途中の病院が断った時もその件数がカウントされていない形になっております。中々この数字については把握しづらいところがあるかと思いますが、前回と比べては、下がっております。

【事務局(市)】 少し補足させていただきます。従来ならば純粹に断って、市立病院に搬送するという形で来ていたのですが、手順が変更になったみたいで、e-MAT CHの関係で、その病院が2回断ったなら、県総へ持って行ってほしいと。取り決めの内容の中で、搬送する優先順位からそういう順番になっているみたいです。つまり、断った患者さんを市立病院の方に搬送する人数が減ったというのが、令和元年度の分になっております。それを計算すれば、断った分と市立病院さんで受けた分で

割り戻しますので、数字が落ちるということで、決してそれを、バックアップを、市立病院で断っているというような数字の見方ではないということで、よろしくお願いいたします。

【小紫会長】 山上会員、よろしいでしょうか。計算式がこれでいいのかという気もしますが。結局、248件断られたのが、そのまま市立病院に来て、その半分も受け入れておりませんというような、そんな単純なものではなくて、途中別のところに行っていたとか、2回断られたら、奈良県総合医療センターができたので、そちらで受け入れるようなルールができて受け入れられる数が増えたとか、色んな要素があるので、単純に97件に減ってというような説明と思うのですが、それよりも整形の影響もあるのかどうか。山上会員、今のご説明でさらにご質問ありますか。

【山上会員】 e-MATCHは詳しく理解してないようで申し訳ないんですけど、城谷先生、優先順位で奈良県総合医療センターへというようなことになっているのか。

【城谷会員】 それは救急隊の中で、どういうルール作りをしているかによるんですけど、e-MATCHというのは、その病気の領域でその病院ごとに、今日は丸を出すか受けられる、三角だったらとりあえず受けられるかもしれないから連絡を下さい、ペケってというのは、担当医がいないということになるんですけど、それを救急隊が見て、丸のところからアクセスをする。よくあるのが。救急医は他の患者さんが来ていて2人目を見る余裕がないということがあると、丸が出ていても断らざるをえないという事があって、そういう時にどこに運ぶかっていうことが、たとえば搬送アクセスが便利な所に搬送されるってこともあると思います。ですから、救急隊のその時のアクセスの方法をどう考えているかってことに依存することがあると思います。

【山上会員】 別に奈良県総合医療センターを優先しているということではないわけですね、今の話でしたら。どこからそのようなことになったのか、ちょっとお伺いしたいのですが。

【事務局(市)】 奈良県さんの中でe-MATCHの関係は決まっているということでは承っております。前言いましたのは、基本的にはどこに持っていくかというe-MATCHの組み方の中で、順番とか見方とか考え方とか三角の取扱いとか、その件を中心としたその話し合いの中で決まったというように、情報を得ているというようなことでございます。

【山上会員】 納得はいかないですが、掘り下げてもしょうがないかなと思いますので、これからも受け入れの方よろしくお願いいたします。

【小紫会長】 e-MATCHは、生駒市の救急隊が色んなルールを決めているわけではなくて、県のルールで決まっている話なので、そこはそういう前提があるのと、個人的には聞いた感じだとバックアップ率というのは、計算式がこういうような数字で計算することになっているのかもしれませんが。実際に市立病院に頼まれて、それでバックアップを受けた数字、これだと拒否件数から受入件数までの間に色んな要素がありすぎていて、本当に市立病院は頑張っていてバックアップ対応していますっていうのを

あまり数字として正確に出てないと思われまますので、そこはまたどういう形でこの数字を示すのがいいのか、元々事業計画でそういう計算式を書いているのかもしれませんが、色々な要素も出て来て、単純にできないと思われまます。山上会員もその辺りも疑問をお持ちだということでありまますので、ここが1つの課題だと整理していくということで、また市立病院に聞きながらやっっていこうと思いまます。

【事務局(市)】 もう一回、書き方、表現を検討させてもらいたいと思いまます。

【小紫会長】 他に何かございまますか。よろしいですか。

1 2 ページ「小児医療」「災害時医療」「予防医療」3 つまとめてご質問はございまますか。よろしいですか。

最後の1 3 ページの「市民参加」と「環境配慮」「その他」ですがよろしいでしょうか。それでは、岡島会員願いまます。

【岡島会員】 市立病院の健康フェスティバルに、私の子どもが金管バンドに入っていたということもありままして、小学生のブラスバンドコンサートに参加させていただき、フェスティバルに毎回参加させていただいていまます。豚肉を電気メスで切ったりして、感動した覚えがありままして、それを子どもも一緒に参加させていただきままして、当時の楽しさから、小児科にお世話になっておりまます。残念ながらというのもおかしいのですが、私も子どもも病気も怪我もしないのです、ここに来ることがほとんどないのですが、必ず何かあれば、玄関を叩いて、来させていただいていまます。

ここのご意見箱、アンケートですね、ここに書いておるとおり、事実、先生方や看護師の方が丁寧に案内していただいて、薬をもらって帰ることができる。きちんとできるのが、病院の丁寧な対応であるかと思うのですが、色々な勉強会などについて、7 ページに載っているかと思いまますが、例えば下の受付の方で看護師さんにでもいいのですが、笑顔じゃないのですが、スマイル的な。私が色々な病院に前から行っていて、どうしても歯医者が苦手で、歯医者に全然行けてなくて、トラウマのようになっていたものが、あるところから行けるようになった病院がありままして、それも結局、入った時の第一印象、窓口の笑顔ですよね、接遇というか、おもてなしというものが研修というか勉強会というのは皆さん、ここはなさったりすることはあるのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 ございまます。

【岡島会員】 そのようなことがここには載っていなかったのです、聞かせていただきました。そういうのがあるようでしたら、これからもどんどんしていただいて、笑顔で対応していただけることが一番だと思っていたのですが、静かな病院を目指すということをおられたので、静かというのも一つなのかもしれませんが、小児医療、小児科というところもまた充実されていくなかで、子どもが静かな病院だとちょっと不気味とか怖いという印象を持ちまます。知り合いの子を急遽連れて来ないといけないとなった時に、恐る恐る、あまりの静かさに「帰りたい」と途中言い出すようになってしまったことがありまました。どこまで静かな病院を目指されるのかと思うのですが、その静かという中でも接遇というか、玄関の門を叩いた時に、一番最初の窓口になる受付とかが、明るくて対応していただけるようなれば、来やすい病院になるのではないかとこのように思っております。

【小紫会長】 ありがとうございます。静かに、笑顔な病院。両立可能だと思われ
ます。十分に、接遇、研修会やっただいただいていると思いますけど、引き続きお願い
いたします。ご意見ありがとうございます。

それでは、13ページよろしいでしょうか。前野会員お願いします。

【前野会員】 13ページのアンケートの総数なのですが、入院で7件って、1年間で7件だったのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 この7件というのはご意見箱に入っていた数です。当院では退院される患者様には、全てアンケートを取らせていただいております。その中でも、ご意見をいただいた患者さまには、分かる範囲で電話訪問させていただいたり、また退院の患者様におかれましては、それぞれの病棟の師長の方から退院後の様子を伺うということの電話訪問、また救急で来られた患者様に関しましても、その後どうですかというような電話訪問もさせていただいたりしております。先程、研修の事も言っていたのですが、院内におきましては、接遇委員会も立ち上げておりまして、接遇に関する色々な意見があったものを中心に、どのようにやっていけばいいのかということ毎月、話し合いをさせていただいたり、また院内では接遇の良かった人の投票もしながら、その人をお手本にするといった取組もさせていただいたり、とにかく患者さんが病院に来ていただいて、お帰りになる時にここに来て良かったと思ってもらえるような接遇をということで、取り組んでおりますので、今後とも何かございましたらご意見いただきましたらと思います。ありがとうございます。

【前野会員】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ありがとうございます。事務局から何かあるようですので、どうぞお願いします。

【事務局(市)】 事務局から恐縮でございます。この12ページの令和元年度のことはないので、小児医療につきまして、若干補足をさせていただきますと、今年7月から待望の小児科の常勤の先生が入職しました。また、マンモグラフィが年度末3月から装備されたということと、また、高気圧酸素治療装置も導入しており、質の高い医療をこれからも市立病院が提供していくことなのですが、できましたらこの3点につきまして、院長先生からPRしていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

【小紫会長】 確かに昨年度すごく大きな改善がありましたので、すみませんが院長先生からお願いできますでしょうか。

【遠藤副会長】 まず、非常に嬉しいニュースですが、7月に1人、小児科の医師が入職しました。40代半ば、こんな個人情報言っていないかわかりませんが、バリバリの先生が来られて、今まで、中々、いつももう少し、もっと、という感じで言われていたのですが、救急がいつできるのか、輪番にどのくらいで参加できるのかまだ不透明なところがありますけれども、いよいよ産婦人科と小児科の2本柱でいけるのではないかと非常に期待しております。

検査のことでは、マンモグラフィーが入りました。今までエコーによる検査は非常に優れたものはありませんでしたが、マンモグラフィーを導入しまして、こんなに素晴らしい機械になっているのかと。昔から二方向、上と横と検査をするわけですが、それをずっと流すように三次元というか、立体を平面にして、それをレンズで見る時代、今でもそうなのですが、立体として出せる装置になっています。ですから非常に細かいものも、今まで目を凝らして、これが異常か正常かなんてことはわからないのですよね。立体的に見られますので。そういう時代に入ったんだと、非常に感動しております。

最後になりますけど、高気圧酸素治療装置です。よく潜水病の治療で知られていますが、海のない奈良県にいるのかという話もありますけども、実はこれは非常に有用でして、なぜかという、人間は息をして、肺から酸素を取り込むことしか通常はできない訳ですが、これをある高圧な部屋に入れることによって、肺からだけではなくて、酸素に触れる色々なところから、どんどん吸収できると。その酸素を入れることによって、血が通わない部位、例えば血管が詰まっている部位、脳梗塞とか心筋梗塞はさすがにそういう治療はないでしょうけど、脳梗塞はそこに血管を通してでなく、酸素を与えるということで、非常に改善する。また、最近言われているのは、抗がん剤によって、またはがんの治療の中で、吐き気なんかをするのは、組織によって酸素需要とか色々なことが関連していることが分ってきていますので、高気圧酸素治療をすることによって、非常に改善していくというようなことも言われております。ですので、奈良県下初の高気圧酸素治療装置を導入しておりますが、これから県内全てに、まず、生駒市民のために、最初に使うということで、大きな披露目の会をやろうと考えていたのですが、この状況の中で人を集めることができませんでしたので、細々とやりながらも100件は超えているという状況ですので、需要はすごくあります。これからもっともっと役立てるのではないかと思います、病院の質を良くしたり、または病院の運営を良くしたりするために、非常にいいものを手に入れたなということをおもっております。以上です。

【小紫会長】 ありがとうございます。会員の皆様、周りの皆様に口コミで是非広めていただければと思います。それでは、13ページよろしいでしょうか。もう一度、1ページから最後まで、質問し忘れたとか、オーダー的なご質問とかございますか。

それでは、これ以上、特にご質問がないということでございます。

本日は、色々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。この報告書案でございますが、修正等なかったかと思っておりますので、これで報告書の最終版ということにさせていただきまして、確定したものを9月の市議会の方に報告をさせていただく予定となっております。この報告書につきましては、以上とさせていただきます。

それでは、2つ目の議題「新型コロナウイルス感染症への対応状況について」ということでございます。本来、この議題は予定しておりませんでしたけども、今日も1名感染者が出たということで、事務局から報告をし、市で答えられること、市立病院で答えられることもあるかと思っておりますので、ご質問を受け、意見交換等させていただけたらと思います。まず事務局から説明をお願いします。

【事務局(市)】 新型コロナウイルス感染症への対応状況につきまして、簡単な資料でございますが、事務局から説明をさせていただきます。

1ページ目のところ、奈良県内の感染者の累計でございます。1月28日に中国武漢市からのツアー客を乗せたバスの運転手が県内初の感染ということで、それからしばらく感染者発生がありませんでした。

しかし、大阪ライブハウスの件やクルーズ船から乗客が下船したところに、若干感染者が出てきて、その後4月に第一波として感染者が奈良県内で増えてきて、その後小康期という形で、5月から6月中くらいまでは、ほとんど感染者がありませんでした。

この7月に入りまして、7月4日の県内感染者の発生以降ぐっと増加しておりまして、7月28日現在では221名、今日現在では7名発生しておりますので、228名ということで、急増しており、まだこれから感染対策というのは、気を引き締めていかなければならない状況であると思います。その下の相談センターの相談件数について、こちらの方も5、6月くらいはずっと少なかったのですが、7月に入りまして、ここ数日は200件前後ということで、相談の需要が増えているという状況になっております。

次のページの表、グラフは、市内の状況でございます。感染者が4月は市内で10件、5月、6月は0件でしたが、7月には19件ということで、本日も1件出ましたので、合計で30件ということで、こういう形で随分、感染者が増えているという状況でございます。この下が4月と7月分の感染の状況でございます。

最後のページになりますが、新型コロナウイルス感染症対策につきましては、奈良県が主体的に取り組んでいるところは、テレビとかでお聞きだと思います。

生駒市につきましても、医療の分野におきまして、生駒市立病院を中心に感染対策、地域医療の体制、新型コロナウイルス感染症対策について進めてきておりまして、市立病院は、奈良県が毎週、県内の病院等と新型コロナウイルス感染症対策について医療の分野で考えていく会議にずっと参加しており、最新の情報を常に把握した形で、市内の新型コロナウイルス感染症対策に関して、推進していただいております。

市立病院は、早くから、市内の診療所の先生方からの発熱の患者さんを診てくれないかというニーズに対して、積極的に発熱患者を受け入れるという体制を、3月の中旬位から取られています。また疑い患者についてのPCR検査の結果が出るまでの間、入院が必要な患者に関しても、入院受け入れもしているということで、市立病院につきましては、市内の新型コロナウイルス感染症対策、地域医療に非常に貢献をいただいているとのことです。

最後に、5月で一番心配だったのは、ゴールデンウィークの休日夜間応急診療体制、この中で発熱患者にどう対応していくかと、混乱が生じないかと、というようなことがありました。そこで、市立病院と医師会さんとで協議をした上で、休日夜間応急診療所メディカルセンターと連携をし、まずはメディカルセンターで相談や受診をしていただく。その際に、コロナの疑いがあると診断されますと通常であれば、保健所に対応していただいて、保健所からの受診調整でどこの病院に行くかということになりますので、かなり煩雑な感じになるのですが、これをメディカルセンターから電話一本、ファクス一本で、市立病院に患者を紹介して、必要に応じてPCR検査をするというような円滑な検査体制を、生駒市内で体制整備をさせていただいて、ゴールデンウィーク期間中の診療状況もご覧のとおり、しっかりと連携されておりました。今現在は、この診療体制につきまして、メディカルセンターと市立病院だけではなく、市内の診療所の先生方と市立病院との連携、こういったものを同じような形で、診療所の先生から直接、市立病院の方に紹介して、PCR検査をする迅速な体制を現在は取っているということでございます。よろしく願いいたします。

【小紫会長】 ありがとうございます。説明、他に何か新型コロナウイルス感染症に関してご質問、ご意見はございますか。山上先生、どうぞ。

【山上会員】 新型コロナウイルス感染症につきまして、実際に患者さんを診ている立場としまして、市民の皆さんはあまり実感としてないと思うのですが、非常に大変な状況でございまして、特に第一波のゴールデンウィークの時は、保健所に電話しても全然検査もしてくれないと、各先生方も語気を荒らげて、「なんでせえへん」という感じで。それでも中々検査をしていただけないような状況の時に、市立病院がやっていたことに本当に感謝しております。市長はじめ、市役所の皆さんも市立病院で受け入れるべきだということで、体制を整えていただいたと思うのですが、本当にそれで乗り切れたと思います。毎日緊張の連続で診察していきまして、よく乗り越えられたなと思います。ちょっと気を緩めていましたら、またこのような現在の状況になりますと、第一波よりも非常に患者さんが増えてまいりました。このような状況になりますと、中々市立病院だけでは検査が追いつかないというようなことも考えられますので、市長には検査体制の拡充をできるだけ早期にできるように考えていただいて、市民の安全を守るという立場からは是非前向きにご検討いただきたいと思えます。

【小紫会長】 ありがとうございます。まさに山上会員に言っていただきましたように、第一波の時、特にゴールデンウィーク期間中を含めまして、市立病院でも対応していただきまして、メディカルセンター、市内の診療所の先生方と連携をして、市立病院がまさに公立病院として対応していただいたなと大変感謝しております。同時に、新型コロナウイルス感染症対応をする1つの課題として、新型コロナウイルス感染症以外の診療等どう対応するかということも非常に大きな課題ですが、その辺りも遠藤院長はじめ職員の皆様には、ご苦勞いただきまして、コロナウイルスが他の診療に大きな影響を与えないようにということで、対応していただいたということでございます。ただし、第一波で奈良県をはじめとして市立病院、生駒市内で対応したということは本当に良かったと思います。山上会員が仰ったように今、実際に患者が増えているということ、まだ上昇等には余裕があるという話もございますが、ちょっとずつ増えていく、まだどんどん増えていくような可能性もあります。また、冬になるとインフルエンザ、発熱、新型コロナウイルス感染症かインフルエンザかどちらか判断が難しい状況が考えられるということで、それがまた大きな課題になってきていますが、私も職員も対応しているところです。今ありましたように、PCR検査体制の充実というのは、生駒市だけではなくて、奈良県全体の課題、これは県が中心に対応しておりますけれども、生駒市民の安全安心に関することでございますので、奈良県と連携をし、また何より我々できることももちろんありますけれども、医師の先生方と看護師さん、事務で対応する方のマンパワーもありますので、市立病院ももちろんですが、山上先生はじめ医師会の先生方、メディカルセンターにもゴールデンウィークにはお世話になりましたし、是非お力をいただきながら、いい形で、今後は、第一波以上の患者数、検査数になると思いますので、市としてもしっかりと対応することを約束したいと思えます。同時に、山上先生をはじめ、医師会、メディカルセンターの皆様方にもお力添えをいただきたく、ご理解いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。他に何かございますでしょうか。

【遠藤副会長】 新型コロナウイルス感染症についてですが、皆様方に評価していただいて、私達もやってき甲斐があるなと非常に嬉しい思いです。個人的な意見になってしまって申し訳ないのですが、私の意見としては、新型コロナウイルス感染症は、おそらく数ヶ月、第一波のあと気を緩めた感はありましたが、数ヶ月で収まるもので

はないというように私は感じています。つまり、コロナ前とコロナ後の社会生活が変わるといふこと、それが恒久的に変わるのか、数年単位で変わるのかわかりませんが、その体制を作るべく早急に今病院の体制づくりをしているところです。一番感じるのは、新型コロナウイルスに対する恐怖心というか、ネットで色々なことを言う人たちがいますが、一番正しい情報を何とか発信していきたい。病院として治療だけではなくて、そういう啓蒙活動を通して、不要な閉鎖、つまり社会生活を営みながらどうやって医療を構築していくのかということ、皆様方が多分持っているものです。ただし、それをはき間違えると新型コロナウイルスなんか怖くないという言い方になってしまい、それが非常に怖い。ですから、その線引きを私達が正しくやって、医療機関として、皆様に役立てることがあれば、病気にならないだけではなく、様々な社会生活が円滑に、昔ほどではないにしても、今非常に不自由に感じて、不自由さの中で暮らしていることがもう少し、改善できるのではないかなということ、色々な取組をしていきたいと思ひます。もしかすると、そういうものを病院同士の色々な連携を作りながら、啓蒙活動をしていければ、非常にいいのかなと思ひています。そういうことも含めて、また治療も検査もやっていく気持ちで、職員一同頑張っていますので、また何かありましたらどんどん意見を言っただいて、ここでの意見が私達の気付かなかったところを治す、そういう場だと思ひております。また、さっき言っただご意見箱にどんどん入れていっただいていただけたらと思ひます。生駒市民が日本一健康で幸せになるのを目指して頑張っただいと思ひます。

【小紫会長】 ありがとうございます。他によろしいですか。遠藤院長にまとめていただきましたので、これで結びとしたいと思ひます。市役所でも第二波がこれから来るから、その前に1回ちょっとリラックスして、第二波に備えようといふこと言っただのですが、第二波も来てしまっただ。職員は大変頑張っただけています。どこまでこの緊張感が続くなかといふところも、マネジメントもしながら、すごく大変な戦いになっただいますけど、しっかりと医療関係の皆様にはご指導をいただきながら、また、市民の皆様不安とか当然ありますでしようから、それに寄り添いながらしっかりと、非常に適切にいいタイミングで情報発信をしているといふように思っただおります。昨日も記者発表しましたけれども、患者数が増えていますけど、しっかりとそれに対する対応を職員が頑張っただけていていふふうにお思ひております。

しかし、まだこれからどうなっていくのかわかりませんので、しっかりと皆様のお力をいただきながら市として対応していきたくお思ひております。

それでは、議題は以上です。事務局から何か連絡はございませか。

【事務局(市)】 皆様、本日はありがとうございます。本日、ご意見いただきました令和元年度実施状況報告書につきましては、来る9月の議会にて報告をさせていただきます予定でございます。また、次回の管理運営協議会につきましては、11月ごろを予定しております。令和2年度の生駒市立病院の中間報告、半年分の実施状況調査を行いまして、会員の皆様からは、本日のようにご意見をたくさんいただく予定でございますのでどうぞよろしくお願ひいたします。事務局からは以上です。

【小紫会長】 予定を少しオーバーしてしまいましたけども、本日の案件は全て終了しましたので、本日の会議はこれで終了させていただきます。皆様、長時間どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。